

230. 「下水処理場の名前」の話

技術開発室 総括主任研究員 糸川 浩紀

仕事柄、他人の文章をチェック・修正する機会が、日常的にあります。当然、下水処理場の名称が出てくることも多いのですが、まあ正しく書けないこと…。例えば、JS が運用している実験施設「JS 技術開発実験センター」では、隣接する「真岡市水処理センター」から下水等の供給を受けていますが、「真岡水処理センター」と書いてみたり「真岡処理場」と書いてみたりと…、正確に表記されることの方が少ないくらいです。確かに、『〇〇浄化センター』だったり『〇〇下水処理場』だったり…と、全国共通のルールが無いので間違えるのも理解はできるのですが、ちょっと調べれば分かるわけで。

…という鬱憤を契機として、今回の「よもやま」は、下水処理場の名前ってどうなってるの？ というお話です。残念ながら私は名称を付ける過程に携わったことがありませんので、統計資料ベースで、何が多数か？ みたいな表面的な話です。過去にどなたかが類似の切り口で文章を書いていそうですが、レファレンスは一切見てません。パクってません。

ふだん仕事をしているの肌感覚では『〇〇浄化センター』が多いんだろうなあ、と思いますが、『〇〇下水処理場』や『〇〇終末処理場』もよく見る気がします。一方、私は都内在住・勤務ですので、東京都の『〇〇水再生センター』には馴染みがありますし、大阪府の『〇〇水みらいセンター』ほどのインパクトは無いにせよ、特定の地域に特定の名称が出てくる、というのもしばしば目にする話です。

で、「下水道統計」掲載のデータを使って、処理場名称の末尾の文言に基づき数が多い順に10位までを集計した結果が次頁の表になります。ヒマ人かよ！ という感じですが…、Excelさんは優秀ですので、データが電子化さえされていれば、それほど時間をかけずにこういう数字を出すことができます。

令和元年度版（令和2年3月現在）のデータを見ると、総数2,144箇所のうち、やはり、『〇〇浄化センター』が圧勝です（別に勝ち負けの話ではないんですが）。1,426箇所、67%ということですので、全処理場の3分の2は、この名称を冠していることになります。この後に『〇〇終末処理場』（149箇所、7%）、『〇〇水処理センター』（87箇所、4%）、『〇〇下水処理場』（83箇所、4%）と馴染みのある名称が続き、ここまでで全体の8割を超えます。『〇〇センター』vs.『〇〇処理場』で見ると、前者が1,805箇所（84%）、後者が285箇所（13%）と、圧倒的に片仮名の「センター」が好まれているようです（"center"=中心/中心地、みたいな意味ですが、何故に下水処理場が「センター」なのでしょうね…；海外では"~Plant"や"~Facility"と称するのがふつうだと思いますが）。ちなみに、同表で「その他」に入っているものも含めると名称（の末尾語句）のバリエーションは豊富で、5箇所以上で使われているものだけを拾っても23種類（！）と、なかなかのものです（こりゃあ、間違

えるわけで…)

当方には昔の「下水道統計」も残っていますので、試しに上記の 20 年前、平成 11 年度版（平成 12 年 3 月現在）のデータを使って同じことをやった結果も、同表に載せてあります。この時点で処理場の総数は 1,494 箇所と今より 650 箇所も少ない頃ですが、上位 5 番目までの構成は、順位に変動はあるものの今と変わりません。目立つのは、『〇〇終末処理場』、『〇〇下水処理場』、その他『〇〇処理場』が、この 20 年間で処理場数として明らかに減少している（総数が増えているにも拘らず）点です。つまり、これらの「直球」的な名称が、他の名称へと変更された、ということですね。個人的には、このような直球の名称も解りやすく好きですが、とかく迷惑施設と言われがちな下水処理場ですので、名称でイメージアップを図るという流れも理解できます。

表 下水処理場名称の末尾語句に基づく集計

順位 (R1)	処理場名	R1年度末		H11年度末	
		処理場数	シェア	処理場数	シェア
-	総数	2,144	-	1,494	-
1	～浄化センター	1,426	66.5%	842	56.4%
2	～終末処理場	149	6.9%	184	12.3%
3	～水処理センター	87	4.1%	44	2.9%
4	～下水処理場	83	3.9%	139	9.3%
5	その他「～処理場」	53	2.5%	94	6.3%
5	～クリーンセンター	53	2.5%	29	1.9%
7	～水再生センター	42	2.0%	0	0.0%
8	～水質管理センター	26	1.2%	20	1.3%
9	～下水道管理センター	24	1.1%	19	1.3%
10	～水質浄化センター	18	0.8%	9	0.6%
-	その他	183	8.5%	114	7.6%

※下水道統計の各年度版に基づき集計(水処理を有しない処理場は除外)。

最後に、海外の話。欧米(特に米国)では、下水処理場に対して"Water Resource Recovery Facility (WRRF)"という呼称がすっかり定着してきました感があります。直訳すると「水資源回収施設」、日本の処理場名に見られるもので近いのは『〇〇水資源再生センター』(令和元年度で 10 箇所)でしょうか。かつては、伝統的な"Wastewater Treatment Plant (WWTP)"や "Sewage Treatment Plant (STP)"、再生水供給を意識した"Water Reclamation Facility (WRF)"辺りが広く使われていたと思いますが、下水を「処理する (treatment)」施設から、「資源回収する (resource recovery)」施設へと、概念的な変革が進んできた(進められてきた)、ということでしょう(ただし現在でも、"WTTP"等も普通に使われます)。きっかけは、2013 年に WEF (米国水環境連盟) が「公式に」"WTTP"の代わりに"WRRF"を使い始めたこ

とだと（勝手に）理解していますが、実際、WEFによる米国版下水処理場設計マニュアル（WEF Manual of Practice No.8 (MOP 8)）は、2010年発刊の第5版までは"Design of Municipal Wastewater Treatment Plants"でしたが、2017年の最新第6版では"Design of Water Resource Recovery Facilities"へと、しれっと名称が変わっています。

日本でも、脱炭素化や資源回収へ向けた動きが加速しており、下水処理場の役割や処理システムの在り方が、今後の10～20年で大きく変わっていくはずです。20年後に本稿と同様の集計をしたら、下水処理場の名前、どうなっているんでしょうね…？